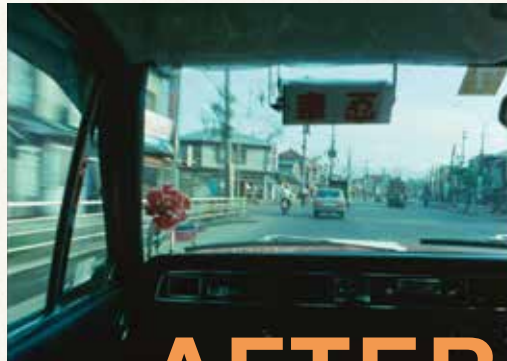


TOP MUSEUM



東京都写真美術館ニュース
eyes114

- | 風景論以後
- | 即興 ホンマタカシ
- | 見るまえに跳べ
- | 日本の新進作家vol.20



足立正生、岩淵進、野々村政行、山崎裕、佐々木守、松田政男《略称・連続射殺魔》1969年

AFTER THE LANDSCAPE THEORY

「風景論以後」展

INTERVIEW

田坂博子学芸員（本展企画者）に聞く

1970年前後、日本では写真・映像表現を巻き込んで、にわかに「風景論」が展開された。「風景」というありふれた言葉を通じて、いったい何を問題にしようとしていたのだろうか。そして現在、このことを改めて検証する意義はどこにあるのだろうか。

— 今回の展覧会对象としている風景論について教えてください。

今回フォーカスしているのは、1970年代前後の日本にあらわれた風景論になります。理論的な部分は企画協力者で、映画研究者、風景論の専門家である平沢剛さんが執筆した本展図録の論考を読んでいただきたいのですが、日本で風景論というものがあらわれた時代は、大きく3つあると言われています。最初は日清戦争のあと、ナショナリズムが昂揚し、志賀重昂^{しげたか}(1863-1927)の『日本風景論』という本が大ベストセラーになった1890年代、2つめは、日中戦争から第二次世界大戦に突入し、脇水鉄五郎(1867-1942)や上原敬二(1889-1981)が日本の風景についての論考を出した昭和10年代(1940年前後)、3つめは、政治の季節と言われている1968年が過ぎ、高度経済成長が終わるなかで、松田政男が『風景



松田政男『風景の死滅』田畑書店 1971年 個人蔵

すべての地方もしくは辺境の街並みは、均質化された風景としてのみ映じたのであった。松田政男「風景論としての都市」現代の眼一九七〇年

の死滅』を出版した1970年代前半です。時代が不安定になり、大きな転換期を迎えるとき、風景とは何かという問いが大きくなっていくわけですが、そのなかでも、中平卓馬や映画《略称・連続射殺魔》など、写真・映像メディアを通して議論を活性化させた70年代の風景論に着目しました。それが今回の展覧会で風景論を取り上げる大きな理由になっています。

— 風景という言葉が一般的なだけに、風景を論じていれば何でも風景論になりかねないので、もう少し詳しく教えてください。

風景というのは誰もが知っていて、誰にとっても美しいものである、という考え方が一般的かもしれません。実際、風景は人間が作り出したものであるのに、そのことを忘れて、水や空気や、自然のように「風景はすばらしい」とってしまう。そうした考えとは異なり、松田は、全国の都市化、均質化が進むなかで、何の変哲もない日常的な風景が、国家と資本による権力構造そのものだとする風景論を展開しました。風景は制度的で、

政治的なものだという問題意識を抽象化して議論したのです。現在ではコロナもあり、少し遡ると東日本大震災をはじめ、いろいろなことがあって、身近な風景が劇的に変化している様子を見ているわけですが、風景の背後に何かがあるのかという本質的な議論ではなく、風景の美しさだけが強調されているのではないのでしょうか？

— 今は世界が不安定な情勢と言えますが、風景に関する写真・映像表現が増えているという感覚はあるのでしょうか。

現在、戦時下にいる人たちにとって、風景は美しいだけではないはずです。そこでは個人の心象風景と思っているものですら、政治や制度や社会構造とつながっているかもしれません。映像は直接的なメディアなので、例えば報道写真のように、辛い状況はストレートに伝わってしまいます。一方で、だからこそアーティストたちは、直接的ではない方法で、いろいろな選択肢のなかから新たな表現をしようとしているのではないかと思います。風景のなかには複雑さがある、いわゆる風景と言ったときであっても、「私の風景」とは言いえない問題が含まれていると思うからです。今回の展覧会では、その点に問いを投げかけている作家を選んでいます。永山則夫の見た風景を想像しながら制作された《略称・連続射殺魔》は、共同制作という形をとって、個人の視点のみではない風景として作られています。松田政男や中平卓馬のような70年代の人たちは、このように、理論や



中平卓馬《無題》1968-1969年 ゼラチン・シルバー・プリント



イメージの問題として風景と格闘していたのではないかと思います。

— 歴史的な出来事として70年代の風景論にまつわる表現を取り上げているだけでなく、今回の展覧会では風景論以後として、現代に至る作家を取り上げていますね。

今井祝雄^{のりお}さんは造形作家として出発していますが、1970年代半ば頃から、自分が住んでいる地域の日常的な風景を8ミリフィルムで記録していて、移動中に信号が赤になったら撮るというように、自分の身体性みたいなものを重視して制作されています。《時間の風景》という作品を作っているくらい、時間という見えない部分、メディアから外れたところの問題を扱っています。

清野賀子^{せいのよしこ}さんは、もともと雑誌『マリ・クレール』

の編集者だった人で、80年代、90年代のファッション業界を見てきたなかで、1995年に写真家として作品を作り始めました。何もない匿名的な、どこでもないような風景を、繊細な色彩で、緻密に仕上げていくような作品を作っています。当時注目されたなかで短い生涯を終えてしまいますが、風景を追及した側面があります。

釜利子^{たかしとこ}さんは、映画監督・福田克彦さんの助監督をしたり、独学で映画制作を学びました。東京国際レズビアン&ゲイ映画祭にディレクターとして関わり、日記のように自伝的な映像を撮り続けています。90年代後半に、拠点を東京から自分が生まれた関西に移して〈伊丹〉シリーズを撮り、完成していきます。

遠藤麻衣子さんは《TOKYO TELEPATH 2020》という、オリンピックを迎えた東京をゲリラ的に

撮った映画や、デビュー作の《KUICHISAN》では沖縄を走っていく少年の幻想的な映像のなかに、実際の沖縄でのデモの現場が映っていて、潜在的に制度的・政治的な問題を想起させる映像を制作しています。結果的に、そのような現実を、ありふれた日常の風景言語を通して伝えようとしているところがあると思います。

— 議論の基盤が共有されないうまま、多くの論者がそれぞれの関心から風景を論じたところに、70年代の風景論のわかりにくさの要因がある気がしますので、各作家に共通して言えそうなことを、もう一言お願いします。

例えば笹岡啓子さんの作品でも、「ここはどこだろう?」という、一見どこか特定できない風景の写真が撮られています、その場所にいた、いる

人々に焦点があてられているように思えます。〈PARK CITY〉というシリーズの作品では、笹岡さんは広島出身ですが、広島が公園都市だという意識で、距離感を保ちながら広島を撮っています。社会的状況によって変化する制度を観察していくように、さまざまな手法で写真を撮っていくことで、風景の解釈の可能性に挑戦しようとしているようです。〈PARK CITY〉は、現代的な眼差しで風景論を考える意味では、いろいろな可能性があると思います。

とにかくどの作家も、風景の背後にある、言語化が難しい問題に対して、それぞれの方法論で挑戦している点に共通性がありますが、風景を考えることがいかに難しいかということを認識するような展覧会になってしまうかもしれません…(笑)。

(インタビュー・構成 黒川典生)

1) 今井祝雄《阿倍野筋》1977年 シングルチャンネル・プロジェクション(オリジナル8mm)22分 2) 清野賀子《千葉》(Emotional Imprintings)より 1996年 発色現像方式印画 3) 遠藤麻衣子《空》2022年 4Kシングルチャンネル・プロジェクション

4) 釜利子《伊丹2006年 冬》2006年 シングルチャンネル・ビデオ 21分 5) 笹岡啓子《PARK CITY》より 2022年 インクジェット・プリント 作家蔵 *表記のないものはすべて東京都写真美術館蔵

風景論以後

After the Landscape Theory

B1F 2023.8.11|金・祝| - 11.5|日|



大島渚《東京戦争戦後秘話》スチル写真(撮影:佐藤元洋) 1970年 大島渚プロダクション 協力:国立映画アーカイブ

風景は、初期ルネサンスに遡る風景絵画に代表されるように、芸術や美と結び付けて語られ、西洋の近代芸術の主題となってきました。また明治維新後の日本においては、その概念が近代化の過程で大きな役割を果たしてきました。他方で、カメラのレンズを通して撮影者の視点をうつしだすという意味で、写真映像という視覚芸術において、風景はそのメディアの起源から現在まで常に重要な主題でした。そして「風景とは何か」を問いかける風景論は、常に社会的構造や美的基盤の在り方を語り、不安な時代や社会状況を契機として登場してきました。

【観覧料】 一般700円 ほか 各種割引あり
※オンラインで日時指定チケットが購入できます。くわしくは当館ホームページをご覧ください。
【主催】 東京都／公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館／日本経済新聞社 [助成] 公益財団法人ポーラ美術振興財団

どこにでもある風景を現実の側からとらえ直す、すなわち視覚芸術を通じて、文化、社会、政治との関係から風景を表現していくそのラディカルな方法は、1970年前後の写真家、映像作家に大きな影響を与えました。本展では、こうした風景論をめぐる日本の写真映像表現を、当時の資料を交えて歴史的に再考するとともに、今日の現代作家にいたるまでの写真映像と風景の変容を、コレクションを中心に包括的に検証いたします。技術の発展により、誰もが日常的に風景をとらえることができる現代において、写真映像表現を改めて見つめる機会をつくります。

展示構成

- 第1章 | 2000- | 笹岡啓子、遠藤麻衣子
- 第2章 | 1970-2010 | 今井祝雄、清野賀子、釜利子
- 第3章 | 1968-1970 | 中平卓馬、《略称・連続射殺魔》
- 第4章 | 風景論の起源 | 大島渚、若松孝二

関連イベント

会期中、出品作家による関連イベントおよび風景論をめぐる映画上映などを行い、展覧会の魅力を多角的に紹介していきます。詳細は決定次第、ホームページで公開します。

▶担当学芸員によるギャラリートーク(手話通訳付き)

9.8(金)、11.3(金・祝) いずれも14:00-

▶出品作家によるアーティストトーク

9.30(土) 15:00-17:00 遠藤麻衣子(出品作家)他

10.9(月・祝) 13:00-15:00 今井祝雄(出品作家)×平沢剛

(本展企画協力)

足立正生、岩淵進、野々村政行、山崎裕、佐々木守、松田政男《略称・連続射殺魔》1969年(表紙)



▶風景論をめぐる映画特集[キュレーター:平沢剛]

上映作品

H 足立正生／岩淵進／野々村政行／山崎裕／佐々木守／松田政男《略称・連続射殺魔》1969年 86分 35mm 東京都写真美術館蔵

I 大島渚《東京戦争戦後秘話》1970年 94分 35mm 配給:大島渚プロダクション

J 若松プロダクション《赤軍-P.F.L.P 世界戦争宣言》1971年 71分 16mm 配給:若松プロダクション

K 大島渚《少年》1969年 97分 35mm 配給:大島渚プロダクション

L グルーポポジボジ《天地衰弱説》1969年 30分 デジタル(オリジナル8mm)作家蔵。《天地衰弱説第二章》1970年 38分 16mm 作家蔵 相原信洋《風景の死滅》1971年 15分 デジタル(オリジナル8mm) 提供:戦後映像芸術アーカイブ

M 原将人《初国知所之天皇》1973-2022年 108分 デジタル(オリジナル8mm、16mm)作家蔵

N NDU(日本ドキュメンタリストユニオン)《沖縄エロス外伝 モトシンカランヌー》1971年 94分 デジタル(オリジナル16mm) 提供:プラネット映画資料図書館

O 高嶺剛《オキナワンドリームショー》1974年 111分 デジタル(オリジナル8mm) 作家蔵 協力:シネマトリックス

P ジャン＝マリー・ストロブ、ダニエル・ユイレ《早すぎる、遅すぎる》1980-81年 101分 16mm 提供:神戸ファッション美術館

Q ジガ・ヴェルトフ集団(ジャン＝リュック・ゴダール、ジャン＝ピエール・ゴラン)《イタリアにおける闘争》1969年 60分 デジタル(オリジナル16mm) 配給:ゴーモン 提供:マーメイドフィルム

R ジャン＝リュック・ゴダール、アンヌ＝マリー・ミエヴィル《ヒア&ゼア こことよそ》1974-75年 53分 デジタル(オリジナル16mm) 配給:ゴーモン 提供:マーメイドフィルム

※上映後アフタートークあり[ゲスト:後藤和夫(出品作家、映像作家)]

上映スケジュール

	10:00-	13:00-	15:00-	18:00-
10.6(金)				J
10.7(土)	K	I	L*	M
10.8(日)		N	O	P
10.9(月・祝)			I	H
10.12(木)				Q
10.13(金)				R

【会場】 東京都写真美術館1階ホール [定員] 190名

【料金】 1プログラムにつき500円

*全席指定 *各回定員入替制/立ち見不可/事前予約不可

*ご鑑賞当日午前10:00より、その日の全ての上映回について受付を開始いたします。

※事業は諸般の事情により変更することがございます。最新情報は当館ホームページでご確認ください。



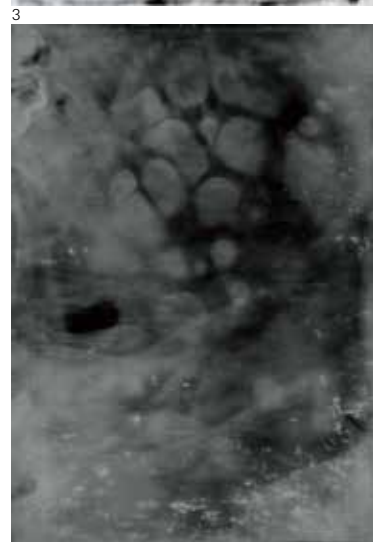
即興 ホンマタカシ

Revolution 9: Homma Takashi

2F 2023.10.6 | 金 | - 2024.1.21 | 日 |



1



3



5

ホンマタカシ(1962年、東京都生まれ)は1999年に写真集『東京郊外』(光琳社出版)で第24回木村伊兵衛写真賞を受賞しました。行政やデベロッパーによる画一的な開発が進む東京郊外の風景と人々を一定の距離感で撮影し、叙情性を排した視点が高い評価を受けました。

2011年から2012年にかけて、国内3ヵ所の美術館を巡回した大規模個展「ニュー・ドキュメンタリー」を開催。キャリア初期のカルチャー誌『i-D』をはじめとするマガジン・ワークや、変わりゆく東京の風景とそこに暮らす一人の少女が成長する

姿を写した〈Tokyo and my Daughter〉、写真家の中平卓馬をモチーフにした映像作品など、作家の写真・映像表現の広がりを概観する新旧作品が展示されました。

日本の美術館で約10年ぶりの個展となる本展では、「都市によって都市を撮影する」と本人が述べる、建築物の一室をピンホールカメラに仕立て、世界各地の都市を撮影した〈THE NARCISSISTIC CITY〉など、この10年あまりに制作された作品を中心に、写真・映像表現にラディカルな問いを投げかける作家の今に迫ります。

関連イベント

- ▶ 展覧会担当学芸員によるギャラリートーク
10.27(金)14:00-
- ▶ 展覧会担当学芸員によるギャラリートーク(手話通訳付き)
12.1(金)、2024.1.5(金)いずれも14:00-
- ▶ ホンマタカシ映像作品特集上映
10.14(土)、10.15(日)、11.18(土)、11.19(日)、12.16(土)、12.17(日)、2024.1.6(土)、1.7(日)
[会場] 東京都写真美術館1階ホール
[定員] 190名 [入場料] 無料
- ▶ 出品作家による連続ワークショップ(全6回)
10.14(土)、10.29(日)、11.11(土)、11.25(土)、12.16(土)、2024.1.13(土)
[会場] 東京都写真美術館1階スタジオ等 [定員] 8名

そのほか、出品作家とゲストによるトークを予定しています。詳細は決定次第、ホームページで公開します。

- 1) 《New York》、〈THE NARCISSISTIC CITY〉より 2013年
- 2) 《REVOLUTION》、〈THE NARCISSISTIC CITY〉より 2013年
- 3) 《No.9》、〈THE NARCISSISTIC CITY〉より 2015年
- 4) 《abstract 1》2014年
- 5) 《mount FUJI 9/36》、〈Thirty-Six Views of Mount Fuji〉より 2016年
- 6) 《広島平和記念資料館》、〈THE NARCISSISTIC CITY〉より 2013年

図版すべて©Takashi Homma Courtesy of TARO NASU

【観覧料】一般700円 ほか 各種割引あり
※オンラインで日時指定チケットが購入できます。くわしくは当館ホームページをご覧ください。
【主催】東京都／公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館

※事業は諸般の事情により変更することがございます。
最新情報は当館ホームページでご確認ください。



見るまえに跳べ 日本の新進作家 vol.20

Leap before you look Contemporary Japanese Photography vol.20

3F 2023.10.27|金| - 2024.1.21|日|

東京都写真美術館では、2002年より写真・映像の可能性に挑戦する創造的精神を支援し、将来性のある作家を発掘するとともに、新たな創造活動を紹介する「新進作家展」を開催してきました。20回目となる本展では、5人の作家を取り上げ、不確かな時代を生き抜くための原動力を探ります。

21世紀に入り、アメリカ同時多発テロ、東日本大震災、新型コロナウイルスの感染拡大、ロシアによるウクライナ侵攻等、日常を揺るがす大きな出来事が起こっています。明日への不確かさは、人々を不安にさせ、新しいことに挑戦する気持ちを後退させてしまいます。私たちは、間違えを恐れ、萎縮し、まるで「深海のような深い孤独」(W.H.オーデン)の中にいるかのようです。このような心のこわばりは、どのように解くことができるのでしょうか。

本展では、この「深い孤独」と向き合い、生きるための原動力のありかを示す5人の作家たちをご紹介します。孤独の中にあっても、人とのつながりを手繰り寄せようとする彼らの作品は、私たちがかたくなな心を溶かし、人生の豊かさとは何かを思い出させてくれることでしょう。

— 見るまえに跳べ — 私たちはいつもそのように歩んできたはずだ。

関連イベント

- ▶ 展覧会担当学芸員によるギャラリートーク 11.17(金)14:00 -
 - ▶ 展覧会担当学芸員によるギャラリートーク(手話通訳付き) 12.15(金)、2024.1.19(金)いずれも14:00 -
- そのほか、出品作家によるトークを予定しています。詳細は決定次第、ホームページで公開します。

【観覧料】一般700円 ほか 各種割引あり ※オンラインで日時指定チケットが購入できます。くわしくは当館ホームページをご覧ください。
【主催】公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館/東京新聞 【協賛】東京都写真美術館支援会員

mumuko
夢無子



夢無子《戦争だから、結婚しよう!》2022-2023年 ©mumuko

Hoshi-Haruto
星玄人



星玄人《東京都港区西麻布三丁目》2019年 ©Haruto Hoshi

Utsu-Yumiko
うつゆみこ



うつゆみこ《岡崎おうはんコンゴウインコ》2022年 ©Yumiko Utsu

Fuchikami-Yuta
淵上裕太



淵上裕太〈上野公園〉より 2020-2023年 ©Yuta Fuchikami

Yamagami-Shimpei
山上新平



山上新平〈Epiphany〉より 2019年 ©Shimpei Yamagami

※事業は諸般の事情により変更することがございます。最新情報は当館ホームページでご確認ください。





本橋成一とロベール・ドアノー 交差する物語

Motohashi Seiichi and Robert Doisneau Chemins Croisés

2F 2023.6.16|金| - 9.24|日|

東京に生まれ、50年以上にわたり、炭鉱やチョコレートなど、揺れ動く社会とそこに暮らす人々の姿を記録してきた本橋成一と、パリや自身が生まれたパリ郊外を舞台として、常にユーモアをもって身近にある喜びをとらえてきたロベール・ドアノー。生まれた時代・地域も異なる二人の写真家の、市井の人々に対する優しさに満ちたまなざしとその豊かさに注目した本展では、日本初公開作品を含む241点を展示します。



関連イベント

▶特別映画上映
9.17(日)15:00- 本橋成一監督作品『アラヤシキの住人たち』(2015年、117分)

[観覧料] 一般800円 ほか 各種割引あり
※オンラインで日時指定チケットが購入できます。くわしくは当館ホームページをご覧ください。

[主催] 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館
[後援] 在日フランス大使館/アンスティチュ・フランセ日本/J-WAVE 81.3FM [助成] 公益財団法人花王芸術・科学財団
[協賛] 東京都写真美術館支援会員 【特別協力】 アトリエ・ロベール・ドアノー/コンタクト/ポレポレタイムス社

※事業は諸般の事情により変更することがございます。
最新情報は当館ホームページでご確認ください。



1F 『見えるもの、その先に ヒルマ・アフ・クリントの世界』

20世紀初頭、唯一無二のビジョンを確立し、カンディンスキーやモンドリアンより早く、独自の手法で抽象的絵画を描いていた画家、ヒルマ・アフ・クリント。死後20年間公表されることのなかった彼女の革新的な作品が今、世界中の人々の心を驚嘆みにしています。なぜ死後20年を経ても知られることがなかったのか。そして、生涯をかけて自分で道をつくり、その道を歩んだ彼女が、目に見えるものを超えて見つめていた世界とは。キュレーター、美術史家、科学史家、遺族などの証言と、彼女が残した絵と言葉から解き明かす。

2019年/ドイツ/94分/英語、ドイツ語、スウェーデン語/DCP



[上映期間] 2023.8.22(火) - 9.10(日)

[休映日] 2023.9.4(月)

[料金] 一般1,800円、学生(大学・専門学校)、高校生1,500円、
中学生以下(3歳以上)・シニア(60歳以上)・障害者手帳をお持ちの方(介護者2名まで)1,200円

〈お問い合わせ〉株式会社トレノバ
TEL.03-6407-1931
〈公式サイト〉trenova.jp/hilma/

TOPコレクション 何が見える? 「覗き見る」まなざしの系譜

TOP Collection: A Genealogy of "Peep Media" and the Gaze

3F 2023.7.19|水| - 10.15|日|

対象をより詳細に見るため、あるいは特別な視覚効果を得るために、歴史上、数々の「覗き見る」ための装置が発明されてきました。本展では、東京都写真美術館の写真史・映像史に関する豊富な作品と資料を中心に、覗き見ることを可能にした装置と、それによって作り出されたイメージ、そして「覗き見る」ことからイメージをを広げた、作家たちの多様な表現をご紹介します。



関連イベント

▶担当学芸員によるギャラリートーク
9.15(金)、10.13(金)いずれも14:00-
▶「覗き見る」メディアとイメージをめぐるレクチャー
9.24(日)14:00-16:30 [講師] 草原真知子
(本展協力者)、細馬宏通(早稲田大学教授) ほか
▶出品作家によるアーティストトーク
9.9(土) 14:00-15:30 [講師] 石川亮(出品作家)、南俊輔(映像作家)
10.15(日) 14:00-15:30 [講師] 伊藤隆介(出品作家) ほか

[観覧料] 一般700円 ほか 各種割引あり
※オンラインで日時指定チケットが購入できます。くわしくは当館ホームページをご覧ください。

[主催] 東京都/公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館

※事業は諸般の事情により変更することがございます。
最新情報は当館ホームページでご確認ください。



1F 「鉛筆と銃 長倉洋海の眸」

1952年北海道釧路市に生まれ、通信社勤務を経て1980年より世界各地の紛争地域に赴き取材を続けてきた写真家・長倉洋海。長きに亘りアフガニスタン取材し、故マースド司令官の遺志を継いで「アフガニスタン山の学校支援の会」を立ち上げ、現在まで支援を続けてきた長倉の軌跡を追ったフォト・ドキュメンタリー。監督は「天のしずく 辰巳芳子“いのちのスープ”」の河邑厚徳。「丸木位里・丸木俊 沖縄戦の図 全14部」もアンコール上映します。

2023年/日本/90分/監督・撮影 河邑厚徳



[上映期間] 2023.9.12(火) - 9.24(日)

[休映日] 2023.9.19(火)

[料金] 一般1,800円、学生(大学・専門学校)、高校生1,500円、
中学生以下(3歳以上)・シニア(60歳以上)・障害者手帳をお持ちの方(介護者2名まで)1,200円

〈お問い合わせ〉アルミード
TEL.080-3230-5376
〈公式サイト〉https://enpitsutojyuu.com/

※事業は諸般の事情により変更することがございます。
最新情報は当館ホームページでご確認ください。

支援会員

東京都写真美術館の活動をご支援いただくため、
次の企業・団体に支援会員としてご入会いただきました。

《特別賛助会員》

キヤノン(株)
全日本空輸(株)
(株)ニコン

《賛助会員》

キヤノンマーケティングジャパン(株)
(株)資生堂
大日本印刷(株)
東急建設(株)
凸版印刷(株)
富士フイルム(株)

《特別支援会員》

アサヒグループホールディングス(株)
サッポロ不動産開発(株)
サッポロホールディングス(株)
ビクテ・ジャパン(株)
リコーイメージング(株)

《支援会員》

(株)I&S BBDO
あいおいニッセイ同和損害保険(株)
アイング(株)
アオイネオン(株)
(株)アクト・テクニカル サポート
(株)浅沼商会
旭化成(株)
(株)朝日工業社
朝日新聞社
(株)朝日新聞出版
朝日生命保険(相)
(有)アスペン/POLARIS
(株)アフロ
(株)アマナ
(株)岩波書店
(株)潮出版社
(株)栄光社
(株)エージーピー
(株)ADKクリエイティブ・ワン
(一財)AVCC・霞が関ナレッジスクエア(KK²)
SMBC日興証券(株)
(株)NHKエデュケーション
(株)NHKエンタープライズ
(株)NHK出版
(株)NHKテクノロジーズ
ENEOSホールディングス(株)

エルメス財団
OMデジタルソリューションズ(株)
カールツァイス(株)
花王(株)
鹿島建設(株)
(株)KADOKAWA
カトーレック(株)
神奈川新聞社
カメラショップ(株)
カルチュア・コンビニエンス・クラブ(株)
(株)キクチ科学研究所
(株)キタムラ
キックマン(株)
(株)紀伊屋書店
ギャラリー小柳
共同印刷(株)
(一社)共同通信社
空港施設(株)
(株)久米設計
グローリー(株)
(株)ケー・アンド・エル
ゲッティイメージズジャパン(株)
興亜硝子(株)
(株)弘亜社
(株)公栄社
(株)廣済堂
(株)講談社
(株)光文社
(株)国書刊行会
(株)コスモスインターナショナル
小山登美夫ギャラリー(株)
佐川印刷(株)
三愛オプリー(株)
三機工業(株)
産経新聞社
サントリーホールディングス(株)
(株)ジェイアール東日本企画
JSR(株)
(株)JT B
(株)シグマ
(株)実業之日本社
信濃毎日新聞社
清水建設(株)
(株)写真弘社
写真の学校/東京写真学園
チャンネル(同)
(株)集英社
シュッピン(株)
(株)小学館

松竹(株)
信越化学工業(株)
(株)新潮社
(株)晋遊舎
(株)スタジオアリス
(株)スタジオエムジエ
(株)スタジオジブリ
(株)SUBARU
住友生命保険(相)
(株)住友倉庫
(株)生活の友社
セイコーグループ(株)
双日(株)
ソニーグループ(株)
損害保険ジャパン(株)
第一生命保険(株)
台新国際商業銀行
大和証券(株)
(有)タカ・イシイギャラリー
(株)高島屋
(株)宝島社
(株)竹中工務店
(株)タニタ
(株)タムロン
(株)丹青社
(株)中央公論新社
中外製薬(株)
(株)TBSテレビ
デジタル・アドバタイジング・コンソーシアム(株)
(株)テレビ朝日
(株)テレビ東京
(株)電通
東亜建設工業(株)
東映(株)
(株)東京印書館
東京空港交通(株)
東京工科大学/日本工学院
(株)ジェイアール東日本企画
東京新聞・中日新聞社
(株)東京スタジオ
東京造形大学
(株)美術出版社
(株)東京ダイケンビルサービス
東京建物(株)
東京地下鉄(株)
東京テアトル(株)
東京都競馬(株)
(株)東京ニュース通信社
(学)専門学校 東京ビジュアルアーツ

(株)東京美術倶楽部
東京メトロポリタンテレビジョン(株)
(株)東芝
東宝(株)
(株)東北新社
(株)東洋経済新報社
(株)徳間書店
戸田建設(株)
(株)トロンマネージメント
(株)ニコンイメージングジャパン
日油(株)
日活(株)
日機装(株)
日光ケミカルズ(株)
日本空港ビルデング(株)
日本経済新聞社
(株)日本広告社
(公社)日本広告写真家協会
日本写真印刷コミュニケーショングループ(株)
(公社)日本写真家協会
(公社)日本写真協会
日本写真芸術専門学校
日本生命保険(相)
日本大学芸術学部
(株)日本デザインセンター
(株)ニッポン放送
日本レコードマネージメント(株)
日本ロレックス(株)
野村證券(株)
(株)博報堂
(株)博報堂DYメディアパートナーズ
(株)博報堂プロダクツ
(株)ハーツ
パナソニックホールディングス(株)
(株)パラゴン
(株)バンダイナムコフィルムワークス
びあ(株)
北海道 写真の町東川町
(株)美術出版社
(株)ビックカメラ
(株)ピラミッドフィルム
(株)ファーストリテイリング
(株)フェドラ
(株)フジテレビジョン
(株)フジヤカメラ店
(株)フレームマン
プロフォト(株)

(株)文化工房
(株)文藝春秋
北海道新聞社
(株)ホテルオークラ東京
本田技研工業(株)
毎日新聞社
丸善雄松堂(株)
マルミ光機(株)
(株)マンダム
(株)みずほ銀行
三井住友海上火災保険(株)
三井倉庫ホールディングス(株)
三井不動産(株)
三菱地所(株)
三菱製紙(株)
三菱倉庫(株)
三菱電機(株)
三菱UFJ信託銀行(株)
武蔵大学
明治安田生命保険(相)
森ビル(株)
ヤマト運輸(株)
(株)吉野工業所
(株)ヨドバシカメラ
読売新聞社
ライオン(株)
ライカカメラジャパン(株)
(株)リビタ
(株)良品計画
(株)ロボット
(株)ワコウ・ワークス・オブ・アート
(株)ワコール
(他1社)

支援会員の
詳細は
こちら▼



(株)=株式会社、(相)=相互会社、(有)=有限会社、(学)=学校法人、(公社)=公益社団法人、(同)=合同会社、(一社)=一般社団法人
(一財)=一般財団法人

(令和5年8月現在・五十音順)

2F SHOP
ミュージアム・
ショップ

NADIFT
BAITEN

展示会の開催に合わせて、品揃えがガラリと変わるミュージアム・ショップ。まだまだ強い日差しや暑さが残るこの季節。反射光が特徴的なプリズムやレインボーラーは、窓辺やデスクの片隅に置くだけで、日常的に光の美しさを楽しむことのできるアイテムです。

プリズム 1,650円(税込)
レインボーラー 1,100円(税込)



詳細
ページは
こちら▼



[営業時間] 10:00-18:00(木・金は20:00まで) [TEL] 03-6447-7684
[定休日] 毎週月曜日ほか
(美術館の休館日に準じます。詳細は裏表紙をご覧ください。)

1F CAFE
カフェ

フロムトップ

台湾で人気の屋台飯、ルーロー飯をワンプレートでご用意しています。カラーゲンたっぷりの皮付きの豚肉にこんにやくを加えた食感楽しいルーロー飯に色鮮やかな野菜を添えました。コーヒーまたは日本茶付き1,500円(税込)。



詳細
ページは
こちら▼



[営業時間] 10:00-21:00 ※当面は10:00-18:00(木・金は20:00まで)
[TEL] 070-8591-3730
[定休日] 毎週月曜日ほか
(美術館の休館日に準じます。詳細は裏表紙をご覧ください。)

SCHEDULE / スケジュール

展覧会・イベント・上映の最新情報は、
topmuseum.jpまたはこちらへ▶



	3F	2F	B1F	1F
2023 9	TOPコレクション 何が見える? (収) 7.19(水) - 10.15(日)	本橋成一と ロベール・ドアノー 交差する物語 (企) 6.16(金) - 9.24(日)	風景論以後 (収) 8.11(金・祝) - 11.5(日)	『見えるもの、その先に ヒルマ・アフ・クリントの 世界』 8.22(火) - 9.10(日)
10				
11	見るまえに跳べ 日本の新進作家 vol.20 (企) 10.27(金) - 2024.1.21(日)	即興 ホンマタカシ (収) 10.6(金) - 2024.1.21(日)	東京工芸大学 創立100周年記念展 写真から100年 (誘) 11.11(土) - 12.10(日)	「鉛筆と銃 長倉洋海の眸」 9.12(火) - 9.24(日)
12			プリビクテ「Human」 (誘) 12.15(金) - 2024.1.21(日)	
2024 1				
2	恵比寿映像祭 2024 2.2(金) - 2.18(日)			
3	3階展示室のみ 3.24(日)まで	イメージと記憶 (企) 3.1(金) - 6.9(日)	APAアワード2024 (誘) 2.24(土) - 3.10(日) アンリ・カルティエ＝ブレッソン 眼の記憶 (誘) 3.16(土) - 5.12(日)	東京都内の美術館・ 博物館等をお得に見られる 「ぐるっとバス」 ▼詳細はこちら▼

(企) 企画展 (収) 収蔵展 (誘) 誘致展



手話通訳付きギャラリートークを開催しています

展覧会担当学芸員が
手話通訳者をまじえて、
展覧会のテーマや
展示作品など、見どころを
わかりやすく解説
します。

「風景論以後」	9.8(金)、11.3(金・祝) いずれも14:00 -
「TOPコレクション 何が見える?」	9.15(金)、10.13(金) いずれも14:00 -
「即興 ホンマタカシ」	12.1(金)、2024.1.5(金) いずれも14:00 -
「日本の新進作家 vol.20」	12.15(金)、2024.1.19(金) いずれも14:00 -

参加費無料 どなたでもご参加できます。
※別途展覧会チケットが必要です。(展覧会無料対象の方は各種証明書をご提示ください。)

東京都写真美術館

TOKYO PHOTOGRAPHIC ART MUSEUM



JR恵比寿駅東口より徒歩約7分、東京メトロ日比谷線恵比寿駅より徒歩約10分※当館には専用駐車場はありません。恵比寿ガーデンプレイスの駐車場をご利用ください。

〒153-0062 東京都目黒区三田1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内 Tel.03-3280-0099 topmuseum.jp

開館時間 10:00 - 18:00 (木・金は20:00まで) ※入館は閉館30分前まで。

休館日 毎週月曜日(月曜日が祝休日の場合は開館、翌平日休館)、年末年始(12/29 - 1/1)

東京都写真美術館ニュース「アイズ2023」114号 □発行日:2023年9月2日 □企画・編集:東京都写真美術館管理課企画広報係 □印刷・製本:株式会社公栄社 □発行:公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館©2023 □本誌掲載の記事、写真の無断複写、複製を禁じます。※本誌編集ページに掲載されている観覧料は、原則として消費税込みの価格です。事業内容は諸般の事情により変更することがございます。最新の情報はホームページをご覧ください。